


●INDEX

プロローグ	生協は現代の「経営危機」を克服できるか	北川 太一	1
シンポジウム			2
基調報告	研究所の20年、これまでとこれから ～生協の「経営危機」をめぐる	浜岡 政好	3
解題	シンポジウムを開催するにあたって	鈴木 勉	12
研究報告	日本経済の現局面をどうみるのか ～くらし・雇用・地域経済の観点から	豊福 裕二	16
研究報告	生協のガバナンスと地域・組合員 ～おおさかパルコープの事例を中心として	庄司 俊作	25
実践報告	経営危機克服に向けての課題	夏目 有人	34
実践報告	パルコープにとっての経営危機とは何か、 その克服と今後の課題	池 晶平	41
コメント		二場 邦彦	47
分科会			58
第1分科会	生協にとって組合員の存在とは？	小池 恒男	59
第2分科会	生協らしい職員の働き方とは？	杉本 貴志	66
第3分科会	生協らしい事業とはなにか	北川 太一	75
特別分科会	3.11東日本大震災後の くらし方の変化と協同組合の役割	浜岡 政好	83
資料	第21回総会記念シンポジウムご案内		91
投稿規定			94

本増刊号は、2013年6月29日～30日に京都テルサで開催した、くらしと協同の研究所「第21回総会記念シンポジウム」の内容を再構成したものです。



表紙紋様 「流水雲取り地量しに小桜散しの紋様」  
田内隆司／京小紋画像提供（田内設計事務所）

雲と霞に桜と、春先の移ろいやすい天候を表しながら、流水に浮かぶ散り桜を思わせる図柄です。流水はとどまることなく流れ続けることを、雲は風に吹かれて形を変えながら漂うことを意味しています。そこに桜が散りばめられ、この図柄に華やかさがもたらされています。およそ春の中旬から中旬まで着られた図柄でしょうか。  
風にたなびかれながらもあるがままの姿で、自由にそして柔軟に変化し続ける、そのような状態でありたいものです。